

消防防災部会 会議録

（出席者） 委 員：5名
 事 務 局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）
 アドバイザー：1名
 ファシリテーター：1名

（会議の内容）

1. はじめに

資料 1 に基づき、第 5 回まちづくり市民会議（第 4 回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料 2 に基づき、第 6 回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

2. 「市民協働モデル事業」の選定

資料 2 に基づき、「市民協働モデル事業」の内容を事務局から説明しました。

説明された「市民協働モデル事業」について、出された意見に対し、シールを使った投票方式で、「市民協働モデル事業」を決定しました。

■投票結果（赤シール：第 1 希望、5 点換算、黄シール：第 2 希望、3 点換算）

| 市民協働プロジェクト 名称 | 赤シール | 黄シール | 合計点数 |
|--------------------|------|------|------|
| ①自主防災活動の推進 | 3 | 1 | 18 |
| ②消防団員加入促進 | 0 | 0 | 0 |
| ③消防教室（防災教室） | 0 | 0 | 0 |
| （市民提案） | | | |
| ④災害時要援護者避難支援の体制づくり | 0 | 3 | 9 |
| （市民提案） | | | |
| ⑤現場目線での話し合いの仕組みづくり | 3 | 2 | 21 |
| （市民提案） | | | |
| ⑥自主防災活動と消防団との連携 | 0 | 0 | 0 |

3. グループワーク

決定された「市民協働モデル事業」について、K J 法によるグループワークを行いました。

■メンバー

| グループ 1 | |
|--------|------------------------------|
| 委員 | 河合委員、首藤委員、渡會委員、佐治委員、沓掛アドバイザー |
| 事務局 | 大羽、牧野、岡本、鎌田（J P 総研） |

4. アドバイザー総括（沓掛アドバイザー）

昨年の大震災を経て、今は地域や市民の防災意識が高まっている。しかし、あと10年もすると、だんだんと意識がしぼんできてしまうことだろう。今後どうやって高い防災意識を継続させていくかということが今、一番気になるところである。

大学でも毎年、防災訓練を行っているが、マンネリ化している。災害警報も頻繁に出ているので、市民の皆さんがそれに慣れてしまっている。

各団体の防災活動の火付け役となる意識の高い人を、行政がどのように選ぶかも重要な点である。ふさわしい担い手を選ぶことが難しい現状がある。この部会に出ている皆さんは非常に意識が高いので、皆さんのような防災意識の高い人に地域防災を引っ張って行って頂きたいと思う。

5. その他

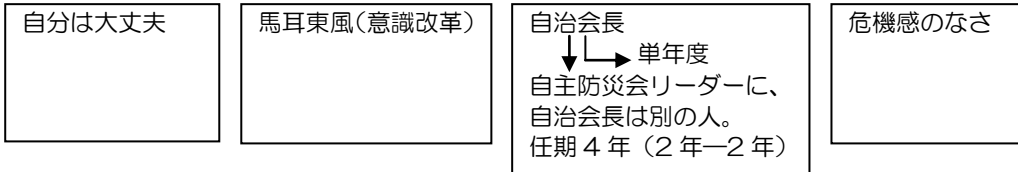
次回開催日程は、8月24日（水）19：00からに決定しました。各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

グループ1

市民・地域・団体

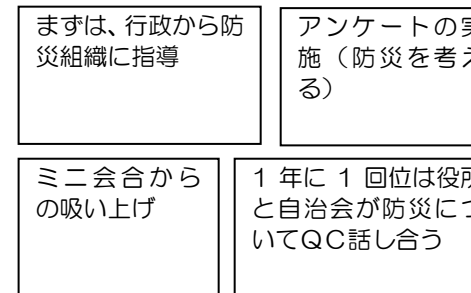
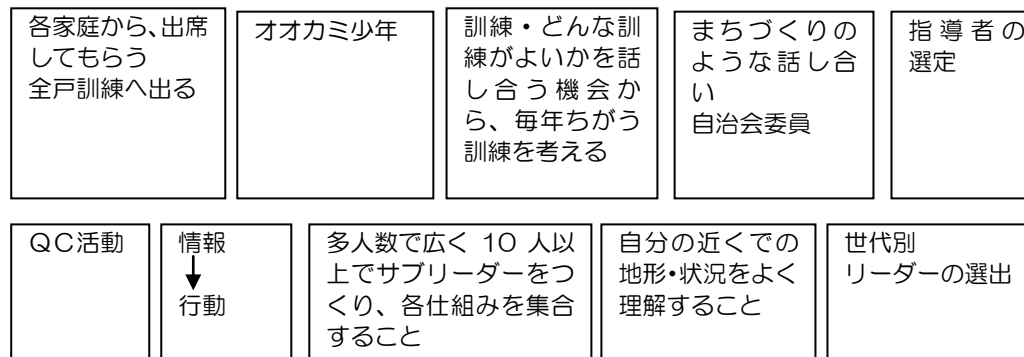
行政の支援

1 きっかけづくり

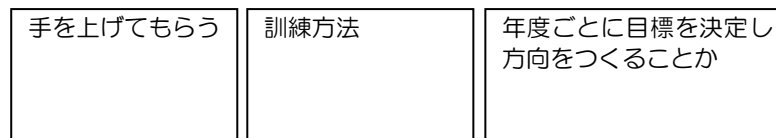


自主防災組織
啓発・訓練
①~③-行政

2 しくみづくり



3 活動継続のために



発表会
○
防災

4 活動のさらなる発展

水害・地震につい
て歴史の勉強

- ・先進地紹介
- ・マニュアル作成
- ・活動のための支援制度